

# 学ぶことは楽しい！ 一生モノを伝える「寄り添い、導く」教育

名古屋工学院専門学校高等課程

編集部

イギリスに“You can take a horse to the water, but you can't make him drink”ということわざがある。「馬を水場に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない」、つまり、指導しても本人にやる気がなければ、やらせることができないということを意味する。

現在、電気工事業界に入職する際に未経験、未資格の「電気初心者レベル」という人も少なくない。しかし、目に見えない電気について興味や学習のモチベーションを維持させることは容易ではないだろう。そこで、現場での育成について、電気初心者への教育や潜在的な力を引き出すための取り組みからヒントを探ることにしよう。

毎年、50名以上の電験三種の合格者を輩出する名古屋工学院専門学校。その実績もさることながら、工業高校との連携など電気教育のレベルアップのために尽力する取り組みについては、本企画でも紹介したのでご存じの人も多いだろう。この電気教育をけん引する学び舎に、実は高等課程も設けられている。ここでの取り組みにフォーカスして教育の在り方について伺った。

## 電気科だけで6クラスの秘密

——一般に電気科が募集に苦戦するケースが多いと聞かなかで、貴校は6クラスもあります。募集に関して何か秘訣があるのでしょうか。

市川先生：東京、大阪圏のメーカーなどは、全国から採用を募るケースも多いと思います。一方、中京地区では地元の高校、大学に進学して地元で就職するスタイルが定着しています。なぜなら、大手自動車メーカーをはじめ、製造業が集中している。そして、地元採用が多い。だから、保護者としても将来や、手に職をつけるなら工業高校という考え方が根づいていることが大きいと思います。

——工業系の人材を必要とする土壤が整っているのは大きな要因といえますね。しかし、それだけで貴校が選ばれているのではないでしょう。入学したいと思わせる理由が何かあるのでは。

市川先生：そうですね。中学校の進路指導を担当する先生の間で当校の指導が丁寧なことを認知されている、というのもあるのかもしれない。

### 概要 名古屋工学院専門学校高等課程



開校 1976年4月 名古屋電気通信工学院工業高等課程 普通科設置、1982年4月より電気科を設置

校訓 感謝、礼儀、誠実、積極、努力

所在地 〒456-0034 愛知県名古屋市熱田区伝馬二丁目24-14

URL <https://nkchs.denpa.jp/>

——なるほど。どのように取り組んでいるのか教えてください。

久保田先生：生徒のなかには中学校時代に休みがちだったケースもあって、入学当時は生徒間でも学力レベルの差があります。そうした勉強が苦手な生徒でも授業についていくための基礎固めや、机に向かうきっかけを作ることに力を入れています。

——基礎というと、オームの法則から始めるイメージでしょうか。

久保田先生：まずは、数学について基礎から復習します。数学が苦手な生徒に対してオームの法則の理解は難しいんです。何かをきっかけに急に勉強ができるようになった経験のある人の共通点は、基礎を理解していることなんです。だから、応用を学ぶというより基礎を繰り返し学び、理解を深めることを指導方針としています。

——理系は積み上げ式の学問ですから基本に忠実に指導されているのが伝わります。

久保田先生：当校の特徴の1つに「わかる！できる！自信が持てる」という言葉があります。勉強ができるようになって、テストでも成績を残せると生徒たちはもっともっとやる気になるんですよね。その仕掛けとして、テスト期間に近づくと放課後補習を実施して授業のおさらいをするんです。そうすれば勉強しないでテストに臨まなくなる。しかも、自宅学習の負担も減らせる。そして、テストで結果を残せる。

だから勉強を嫌いにならない。この補習には授業についてこれない生徒をなくす目的も大きい。これは当校の伝統的な取り組みですね。

——テスト勉強のための補習とは珍しいですね！勉強する習慣づけにも役立っていると思います。

市川先生：自信はやる気に直結しますからね。入学当初は「計算問題ばかりやらせて…」と思っていた生徒たちも計算技術検定に合格するところになると急にやる気になります。しかも、勉強が嫌いだった生徒が検定マニアになるというのでも珍しくありません。面白いでもありますよ。

——何ごとにもきっかけが大事なんですね。資格試験の対策はどのようにされていますか？

久保田先生：部活動に力を入れたい生徒もいるので、補習や勉強ばかりにならないように気をつけています。そのため検定や資格の対策は授業中に取り入れることもあります。例えば、危険物取扱者であれば理科の科目の授業プログラムに盛り込むなど、なるべく補習を実施しなくても資格などを取得できるように配慮しています。とはいっても、合格者を盛り上げることや資格にも目を向けさせる取り組みも大切です。そこで、合格者一覧を玄関に張り出して、みんなで成果をたたえる取り組みも行っています。人を伸ばすには「ほめて、ほめて」を効果的に使って、定期的にやる気のスイッチを押してあげる方法がいいですね。



◀「理解度」を重視した学習スタイルが有名な同校。中学校の復習から勉強をスタートすることで高校の授業にスムーズに取り組めるようになる。

また、こうした学習を自宅でも実践できるように学習ソフト「Thanks Drill」を開発。徹底的に基礎力を身につけてもらいたい。そんな先生たちの思いが伝わる。